

やんばうあ～ねっと 2014年7月 第28号

学校での生活障害体験学習事業

おきなわ つゆい がつじょうじゅん
沖 縄 は梅雨入りが5月 上旬で6

がつげじゅん あ ひざ つよ まなつ
月 下旬には明け、日射しが強く真夏の

あつ ひ つづ うみ い およ
暑い日が続いて、海にでも行って泳ぎた

きぶん みなさま す
い気分ですが、皆様はどうお過ごしでしょうか？



ほんだい こんねんど ふくしかんけいさかん れんけい ふくしきょういくけいはつ
さて、本題ですが今年度も福祉関係機関と連携しながら、福祉教育啓発の

せつきよくてき すいしんじぎょう いつかん せいかつしうがいたいけんがくしゅう いち
積極的な推進事業の一環として「生活障害体験学習」を位置づけ、

なごし もとぶまち なきじんむら しょう ちゅう だか だいがく せいと たいしよう しようがい も
名護市・本部町・今帰仁村の小・中・高・大学の生徒を対象に、障害を持

わたし くるまいすおよ たいけんがくしゅう いま しゃかい きょういく
つ 私から、車椅子及び、アイマスクなどの体験学習や、今ある社会の教育の

げんじょう われわれ じりつせいかつ うえ かいぜんてん こうわ なか
現状と我々が自立生活していく上の改善点がどうあるべきかを講話の中で

はなし
話をさせていただいている。

ほんねんど こう おこな けいかく しうがいとうじしゃ しゃかい なか せいかつ
本年度は12校で行う計画をしています。障害当事者が社会の中で生活

なか きょういく ぶんや ほんにん のぞ ちいき せいかつ
していく中で、教育の分野から本人が望む地域で生活していくようにと、

しようと、障害の理解を深めてもらえるきっかけになる事を期待し活動していきます。

それと、車椅子とアイマスクで校内をまわり、今ある段差や坂道の不便さや、配慮の必要性を実感し、障害がある人の立場にたってもらえるようなきっかけになれたらなと考えています。

「共生社会」とは、今まで十分に社会参加できるような環境に無かった障害者等が、積極的に参加していく事ができる社会であると思います。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、このような社会を目指すことが重要です。

にんげんたようせいそんちょうとうきょうかじゅうしゃかいこうかてきさんか人間の多様性の尊重等の強化で、自由な社会に効果的に参加することを可能とする事、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が排除されない事と、自己の生活する地域において教育の機会が与えられる事、個人に必要な「合理的配慮」が提供される事等が必要です。障害者の権利に関する条約において、「合理的配慮」の否定は、障害を理由とする差別に含まれているとされています。

また、障害のある子供の時から、地域社会の中での一員として普通に生きていく

ちいき どうせだい こども ひとびと こうりゆうとう とお ちいき せいかつきばん
ような、地域の同世代の子供や人々の交流等を通して、地域での生活基盤を
けいせい こと かのう かぎ しようがい こども しようがい こ おなじよう
形成する事と、可能な限り障害のある子供と障害のない子どもが同じ場で
ひょうどう とも まな はいりょ こと じゅうよう
平等に共に学ぶことができるよう配慮する事が重要なです。すぐそばにいて、触れ
あこと でき しぜん たが わ あ りかい なに よ みちすじ
合う事が出来ていれば自然に互いに分かり合い、理解し何をどうすれば良いのか道筋を
かんが よう きょうせいしゃかい じつけん けいはつかつどう
考えていくのです。この様な「共生社会の実現」の啓発活動をしていきます。

おきなわけんじょうれいだい ごう かき とお きさい
«沖縄県条例第64号は、下記の通り記載されています。»

おきなわけんじょうがい ひと ひとともく しゃかい じょうれい
沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例における
きかいふよ だい じょうこうちよう きょういん た きょういくかんkeいしょくいん じょうがい
機会の付与) 第12条 校長、教員その他の教育関係職員は、障害
ひと きょういく おこな ばあい じょうがい ひと たい じょうがい
のある人に教育を行なう場合において、障害のある人に対して、その障害の
じょうたい もの きょういくじょうひつよう しょん ないよう ちいき きょういく たいせい
状態、その者の教育上必要な支援の内容、地域における教育の体制
せいび じょうきょうとう おう ほんにん ひつよう みと てきせつ しどうおよ しょん う
整備の状況等に応じ、本人に必要と認められる適切な指導及び支援を受
ける機会を与えなければならない。

JIL総会・全国セミナーに参加して

5月27日から29日の3日間にわたり、マイドーム大阪にてJIL総会・全国セミナーが開催されました。

だいいちにちめ さいしょ 第一日目、最初のプログラムは、ひがしとしひろ 東俊裕さんによる障害者権利条約

ひじゅんご しうがいしやうんじう はなし けんじょうやくひじゅん む 批准後の障害者運動についてのお話でした。権利条約批准に向けて

じっさい くに そしき はい こくないほう せいび と く ひがし はなし 実際に国の組織のなかに入って国内法の整備に取り組んできた東さんのお話

もんだい ふか かいじょうない さんかしやせんいん せつきよくてき は、この問題に深くかかわっている会場内の参加者全員にとって、積極的に

かつどう かくご と きび ないよう はなし 活動する覚悟を問う厳しい内容のお話でした。

つづ ゆめちゅう おおはし いりょう ひとつ じゅうど 続いて、夢宙センターの大橋グレースさんによる医療ケアの必要な重度

しうがいしや かいじょしゃ つか ちいき く さまざま くふう はなし 障害者が介助者を使って地域で暮らしていくための様々な工夫についてのお話

き りそう ちいきせいかつ じつげん ほんにん かいじょしゃ はな を聴きました。理想とする地域生活を実現させるため、本人と介助者がよく話し

あ たす あ たいせい かんしん むずか 合い、チームで助け合う体制がとてもよくできあがっていて感心してしました。この難

きょうりょく あ つづ おも しいことをよくみんなで協力し合って続いているなと思いました。

いちにちめさいご だい こうりゅうかい じりつ 一日目最後のプログラムは「おもてなしアメリカン」と題した交流会でした。自立

せいかつ ちち しゅつしんち しょくじ かいじょうない 生活の父エド・ロバーツの出身地カリフォルニアにちなんで、食事や会場内の

そうしょく ふんいき えんしゅつ たの こうりゅうかい おおさか 装飾など、アメリカンな雰囲気を演じ出してとても楽しい交流会でした。大阪

かく きょうりょく あ さまざま たの じゅんび の各センターが協力し合って様々なレクリエーションを楽しむブースが準備されていて、

しぜん た ひと こうりゅう くふう 自然に他のセンターの人たちと交流できるように工夫してありました。

だいににちめ ごぜんちゅう ちいきせいかつ ひつようせい 第二日目の午前中は地域生活におけるエンパワーメントの必要性についてのプ

ログラムでした。講師の方々が演じるロールプレイを見たあと、4、5人のグループにわかれで
かんそう いけん た はなし き
感想や意見をいいました。他のセンターでがんばっているスタッフのみなさんの話をじっくり聴
きかい きょうじかん ひび しごと やく た
く機会はたまにしかありませんので、とても貴重な時間になりましたし、日々の仕事の役に立
いけん き
つ意見も聞くことができました。

そんげんしほうせいか もんだいてん ゆうせい
午後からは尊厳死法制定化の問題点についてのパネルディスカッションでした。優生
しそう いのち い わたし いっぽんしみん
思想につながることや、命について、あるいは生きることについて、私たち一般市民がも
ふか かんが ひつようせい かん そんげんし ぜひ そんげんしほうあん
っと深く考えることの必要性を感じました。また、尊厳死の是非と尊厳死法案
ぜひ べつ ろんてん はなし しんせん
の是非は別の論点だというお話をとても新鮮でした。

つづ ちばけん しせつ しうがいとうじしゃ ぎやくたい しほう じけん
続いて、千葉県の施設で障害当事者が虐待され死亡した事件についてピープ
ルファーストの佐々木さんから報告を受けました。法律が変わったり、条例ができても、まだ
じけん お しょにち ひがし はなし
このような事件が起こることについて、初日に東さんからお話をあったように、われわれ
CILの日々の仕事に対する姿勢が問われる問題だと感じました。

さいしゅうび しんじんむ けんしゅう さんか こうし ふじた うんどう
最終日は新人向け研修に参加しました。講師の藤田さんからCILと運動の
れきし りねん はなし じぶん しごと いちばんたいせつ きほん
歴史やその理念についてお話をうかがい、あらためて自分の仕事で一番大切な基本
かんが み なお
の考え方を見つめ直すことができました。

研修最後のプログラムはヘルパー制度の歴史についての話を聴きました。まだヘルパー制度のない時代に、CPの方たちと学生ボランティアの方たちが一緒にになって、少しづつかたちをつくり上げていったお話を聴いて、ひとりの人間同士として関係を深めていけるこの仕事のおもしろさをあらためて教えてもらったような気がしました。また、当時のみなさんは、たとえ貧乏でも、たとえんかしても、たくましく、楽しくやっていて、なんだか元気がでました。

第25回九州身体障害者水泳選手権大会in沖縄

去った6月15日に奥武山公園

水泳プールにて、身体障害者

水泳大会が開催され、10：30から

競技が開始されました。



これは、九州身体障害者水泳連盟が主催で、身体、知的、

精神障害者の小学生以上登録者で、週1回以上定期的に

練習している者が競技に参加できるシステムです。

なか しゆもく じゅうがた ひらおよ
その中で、種目は自由形、平泳

せおよ
ぎ、背泳ぎ、バタフライがあり、25メートル、
50メートル、100メートルがありました。

きょうぎ さんか かたがた て
この競技に参加されていた方々は、手



あし しうがいしや おも
や足の障害者が主でした。

きょうぎ いつぱん たち おこな きょうぎ か おも
競技は一般のアスリート達が行う競技となんら変わらないと思いましたが、

しうがい おも ひと およ すがた み おそ ひとほどおうえん つよ きも
障害の重い人が泳いでいる姿を見て、遅い人程応援したいという強い気持ち

になりました。アスリートというのは、速い人程かっこいいと思うのですが、泳ぎもままならない

じゅうど ひと いつしょけんめいおよ み ひと およ
ぐらいの重度の人が一生懸命泳いでいるのを見て、この人がゴールまで泳ぎつこうと

すがた かんどう じしん はげ ゆうき つな よ おも
する姿に感動させられ、自身の励みと勇気に繋げられ良かったと思います。

おきなわ せんしゅ にゅうしょでき
沖縄の選手は入賞出来なかつ

せんしゅ がんば
たのですが、選手やサポーターの頑張って

すがた み かんどう じっかん
いる姿を見て感動を実感できたの

おうえん い よ
で、応援しに行って良かったです。



じかい たいかい あら ちから おも かげ おうえん
また次回の大會までには新たに力をつけていけると思しますので陰ながら応援し

おも
たいなと思いました。